

[編集発行]  
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団  
[作成協力]  
老上西学区まちづくり協議会

# ふるっ

My home town story

## 老上西



### 老上西

草津市の南西部に位置する。2016年、人口増加に伴う小学校の分離・新設により、従前の老上学区がふたつに分かれ、14番目の学区として成立。区域の約8割が市街化調整区域ながら、大規模なショッピング

モールやスーパー・病院・保育園・高齢者支援施設が立地するなど利便性も高い。

また家族で楽しめる矢橋帰帆島公園や「急がば回れ」のことわざを生んだ「矢橋道」、近江八景の「矢橋の帰帆」や国指定重要文化財の「鞭崎神社表門」「石津寺」など、自然・歴史文化・暮らしが調和する豊かな表情をみせるまち。

学区成立と同時に設立した老上西学区まちづくり協議会では、「お互いに支え合いながら安心して暮せるまち 住ん

でみたいと思えるまち 老上西」をスローガンに地域のまちづくりに取り組む。

※地域まちづくり計画・老上西学区まちづくりプランなどより一部抜粋・改訂

- 総人口 : 8,671人 (139,803人)
- 0-14歳 : 1,466人 (20,162人)
- 15-64歳 : 5,361人 (88,253人)
- 65歳以上 : 1,844人 (31,388人)
- 世帯数 : 3,431戸 (63,867戸)
- 65歳以上の割合 : 21.3% (22.5%)

※外国人を含めた集計/カッコは草津市全体  
草津市HPより(令和6年2月29日時点)

春めく老上西。満開の桜と春の陽気に誘われ、草津川の堤防では多くの人がそれぞれの時間を過ごします。557本もの堤防桜はNPO法人琵琶湖ネット草津の「桜の木オーナー制度」によるもの。その一本一本に市民オーナーさんの家族や大切な人への想いが込められています。一組の親子に出会いました。ココからまた家族のストーリーが始まります。

FEATURE

草津市コミュニティ事業団



2024

# たすけ、はんにじまじよ

## たすけ愛隊「ママの手」 金川美鈴さん

今日も老上西まちづくりセンターの調理室は賑やか。カッコいいエプロンとキャップでピシッと決めた女性たちが所狭しと動いています。

そう、今日は毎月のお楽しみ「おいにずカフェ」。主催する「たすけ愛隊ママの手」の面々がランチの準備に追われています。



### ごはんにしまじよ

本日のメニューはおでん。大根・たまご・ちくわ・こんにゃく・里芋に、ごぼ天…立ち上る湯気と香りが食欲をそそります。出汁が染みた大根なんて、なんとも美味しそうです。

「この大根ね、昨日から下ごしらえしてるんですよ。よく染みてるでしょ(笑)」エプロン姿の女性がそっと教えてくれました。

「おいにずカフェ」は老上西学区の地域サロン。第一水曜の毎月開催です。地域の高齢者を中心に昼前から手づくり作業やミニ講習会で楽しく学んだり体験したり。「そろそろお腹が減ってきたなあ」と頃合いにランチが用意されていくわけですね。

### 人とつながる安心を

地域の皆さんを想い、手間を惜まず、心を込めて作られたこのランチは、なんと300円。希望者のみへの提供ですが、参加者のほとんどが楽しみにしているというのもナットクです。カフェには参加できなくても、この弁当だけを買いにくる人も少なくありません。

ここで皆と一緒に楽しく食べるのもよし、持ち帰って家族と食べるのもOKという、ゆるさも嬉しいですね。

この「おいにずカフェ」を運営するのが地元のボランティアグループ「たすけ愛隊ママの手」です。参加する誰もが笑いと温もり、そして人とつながる安心感を感じられるのも、スタッフ一人ひとりの明るさが生み出す場の空気感でしょうか。

### 自分にできること

なかでも、ひと際、明るく立ち回っているのが代表の金川美鈴さんです。

「老上西学区が旧老上学区から分離したのは8年前(2016年)。新しいまちづくりセンターもできて、『新たに誕生したこの地域を盛り上げたい』と動きまわっている職員さんたちの必至な姿を見て、私たちにも何かできることはないかな、と。」

それで、このセンターが高齢者から子どもまで、みんなの居場所になったらいいなと思って始

めたのがこの「おいにずカフェ」なんです」

### ゆる〜くボランティア

いつも、笑い声の絶えない調理室ですが、抜群のチームワークで、あれよあれよと盛り付けられていく手際の良さには驚かされません。

「地元の各種団体や料理上手な人、ボランティアを名乗り出てくれた人など男女21人で運営しています。買い出しや食後のコーヒーはセンターの職員さんがカバーしてくれて、みんなまで運営しています」

メンバー自身も楽しんでる姿が印象的です。

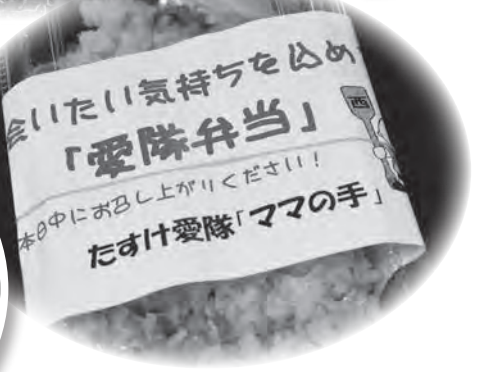
「それはたぶん、ゆる〜いルールにしてるから、ですかね。4班に分けての活動なので、当番が回ってくるのは4回に1度。メニューも調理





の手順もその班にお任せ。家庭に帰ればみんなプロなんで、自分流でいいんです。欠席や遅れる知らせだつていりません。『やらなくちゃ、行かなくちゃ』なんて思うとしんどいでしょ。メンバーや参加者とワイワイしながら、楽しいと思えなきゃ長続きしないものね」

あくまで、地域のために」という自発性を大切にするのが、ママの手流です。



### 倉庫いっぱいのお米

ママの手が応援するのは高齢者だけではありません。子ども食堂のお手伝いもしています。150人もの参加があったときは、さすがにお米が底をついてしまったのだとか。もう購入費も残ってなくて、町内会ニュースに「子どもたちのためにご寄付を」と掲載すると、なんと倉庫に入りきらないほどのお米が集まったのだとか。

それ以来、あちこちから声がかかり、季節の野菜が届くようになりました。「皆さん、地元へ何かお手伝いしたいと思っておられるんですよ。老上西学区ってホントにすばらしいところですよ」と金川さん。

### あなたに会いたい

そんな金川さんには忘れられないできごとがあります。

「地域で独り暮らしの高齢者が亡くなり、しばらくして発見されたことがありますし

た。枕元に私の名刺が置いてあったそうです。それは民生委員をしていたところに『何かあれば連絡してね』と私が渡したものでした。ショックでした。ここに来たくても来れない高齢者もいる。それなら、こちらから訪ねよう。体調が悪そうなら私たちが専門機関につながる」と

ここ老上西学区では約14軒に1軒は独り暮らしの高齢者\*なのです。

こうして、この4月から85歳以上の独居高齢者を中心にお弁当を届ける活動、名づけて「あなたに愛隊弁当」が始まりました。月に1回、筒ご飯や栗ご飯など季節のご飯を持って訪問。受け渡しの折にお話しする見守り活動です。「少し顔なじみになれたらカフェにも出て来てもらえるかな」

愛隊弁当にはそんな思いも込めました。さあ、ごはんにしましょ。



金川美鈴さん

そうそう、「ママの手」の名前の由来を忘れるところでした。「お母さんの手ってあったかいでしょ。不安な時、ツライ時、痛い時…。お母さんが背中をさすってくれるだけで、ふっと楽になるように、私たちも地域の皆さんがしんどい時にそっと身体をさする存在になれたらいいなと思ってね」

金川さんは今、登校できずに苦しむ子どもとそのママたちにも寄り添えないかと模索しています。ここに来れば気楽でいられるという場所になれないか。

老上西のママさんたちは、今日もそのあったかい手で、まちのみんなを包むのです。

\*2015年国勢調査では老上西学区の一般世帯のうち高齢世帯の状況を表す「65歳以上夫婦のみ世帯」が10.8%、「65歳以上の単独世帯」が6.9%。(草津未来研究所「統計に基づく草津市の各学区・地区の姿」より)

# ひとまち ぶらり 老上西



琵琶湖

近江大橋

びわ湖大花火大会  
ビューポイント①  
(車は入れないよ)

対岸に見える大津の  
景色がおススメ。  
芭蕉の歌碑もチェック

大はらっぱ広場。  
子どもと一緒にあそぼ!

矢橋帰帆島

メタセコイア並木。  
金色に輝く秋も、  
雪景色の冬も  
良きかな

空気が澄んだ冬の朝には  
ココから伊吹山が見えるとか

淡海環境プラザでは県内のマンホールを展示。  
マンホールカードがもらえるよ

**中間水路**  
今、注目の中間水路。「老上西学区地域  
再生計画」の具現化に向け様々な事業が  
展開中!毎月1回「びわ湖まもり隊」による  
清掃活動にあなたも参加しませんか  
カヌー体験も人気!

**矢橋公園**  
「急がば回れ」の由来となった「もののふ  
の矢橋の舟は早くとも急がば回れ瀬田の  
長橋」矢橋の舟はここから出た。  
浮世絵の近江八景「矢橋の帰帆」にも  
描かれた。石積突堤が矢橋港跡だった当  
時を今に伝える

キショウブ

**十禅寺川沿い**  
毎週、ゴミを拾って  
くれるのは松田さん

**十禅師川の橋**  
びわ湖大花火会ビューポイント②

**浅井農園**  
月水金には新鮮野菜を販売

**サトイモ畑**  
老上西まち協「里芋プロジェクト」

**イオンモール草津**  
フードコートから眺める琵琶湖にほっこり

**ボルボロン**  
P8

**ビオトープ**  
水資源機構琵琶湖開発に  
よるビオトープ活動

びわこの干松

湖南幹線

**田中貞豊鍛刀場**  
田中貞豊さんは県内でも数名  
しかいない刀鍛冶師

**矢橋大橋**  
湖西の山々に沈む  
夕日美しい

**清浄寺**  
遊女梅川のお墓が見つかり、  
観光ボランティアさんにより  
毎年供養されている

**樹齢250年の  
イチヨウ**  
湖上の舟から目印  
になった大木

常夜灯

**石津寺**  
最澄が創建。現在の本堂は足利  
義詮が再建したと伝えられている

**力士の名を刻む道標**  
冷水佐助は矢橋出身の力士。  
「冷水佐助」の名が  
道標に刻まれている

新浜町

**子どもの居場所**  
毎週火曜日、黒飛さんは  
自宅で硬筆を教えながら  
子どもの居場所を提供

**中林自治会**  
独居高齢者の見守り活動を展開

**淡海医療センター**  
9階のレストランからは  
学区が一望

**十王堂跡**  
近松門左衛門の  
「冥土の飛脚」のモデル  
遊女梅川終えんの地

**ふれあいの塔**  
明治29年の洪水で  
浸水した高さ(3.7  
m)が記されている

矢橋総合会館

矢橋町

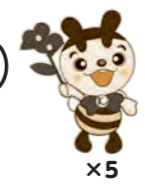
**いちじく農家**  
朝7時から並んで  
買い求める人も

鳩が森町

**鳩が森種の会**  
鳩が森・よし池集会所で  
うどん作り。

東新浜町

**どこに〇〇  
いるかな**



草津市コミュニティ事業団  
マスコットキャラクター  
**まち活マッチ**  
x5



老上西学区まちづくり  
協議会キャラクター  
**にしべい**  
x2

マップの中にマッチとにしべいがいるよ。探してみてネ

子どもの見守り活動に力を入れている町内会

**草津川の桜並木**  
草津の新しい桜スポット。この557本の桜はNPO法人  
琵琶湖ネット草津「桜のオーナー制度」によるもの。  
一本一本に市民オーナーの想いが込められています。  
三角地公園で行われる桜フェスタも人気

**鞭寄八幡宮**

あの鎌倉殿、源頼朝が鞭を指して祭神を尋ねたことが名前の由来。  
今でも武豊や福永祐一などの有名騎手が鞭を奉納するのだとか。  
拝殿の天井には菅原道真公の歌が地元の芝田ゆき子さんによる  
大津絵で描かれている。春には境内の桜が見事

**老上西小学校**

2016年開校の市内一新しい小学校。  
木をふんだんに使った温かみのある校舎で子どもたちが学ぶ。メディアセンター  
や大階段など特色ある施設も。花壇の手入れや田植え体験をサポートする老上  
西農業合校をはじめ、多くの地元ボランティアグループが見守る

**老上西まちづくりセンター  
(老上西学区まちづくり協議会)**

2016年に老上から分離して開設。学区のまちづくり拠点。  
たすけ愛隊「ママの手」によるおいにずカフェ。にこにこ食堂は人気。  
月替わりのまちの小さな美術館  
子育てサロン「コスモスの会」がママ応援サロンを開催

**銀峰工房**

伊庭拓也さんが手がける  
繊細で美しい銀細工。草津  
市ふるさと納税の返礼品

**矢橋マスカット農園**  
シャインマスカットの直売所

奥の沢池



橋岡会館

JR東海道本線(琵琶湖線)



FEATURE

# “急がば回れ”的 夢のかなえ方

## 中間水路とびわ湖まもり隊

伊庭健治さん(老上西学区まちづくり協議会 会長)  
 中島美徳さん(市議会議員)  
 西村貴充さん(びわ湖まもり隊 代表)



まずは、なぞなぞから。「おおきなくちで、「ゴミばかりたべているもの、なくんだ?」。そう、「ゴミ箱です。ではもう一問。次は少し難しいかも。「みんなが捨てるために買うものって、なあに?」……わかっただあなたは、さすが! 答えは、「ゴミ袋です。近江八景のひとつ「矢橋の帰帆」の地では月に一度、ゴミ袋やゴミばさみを手に湖岸のゴミを拾う人たちに出会います。でも、どうやら拾っているのは「ゴミ」だけではなさそうです。

### 目を背けてしまおう

母なる湖・琵琶湖は今日も静かです。目の前に広がるのは帰帆島と矢橋の間、地元で「中間水路」と呼ばれている場所。

ここ老上西では、今、この中間水路に注目が集まっていること、知っていますか?

きっかけは地域での住み良さや賑わいを創ろうとする市の計画\*づくりでした。

「老上西学区は大きな病院やショッピングセンターもあって、住み良いまちです。ただ、40年経った帰帆島と中間水路に「ゴミがたくさん捨てられているのが問題になっていました。繁殖した水草なんか腐って、悪臭も放っています。正直、地元では目を背けたい場所。近江八景『矢橋の帰帆』も、今や見る影もありませんでした」と中島さん。

### 要望だけでは…

こうして、計画は立命館大学の協力も得ながら、市と一緒に検

討と社会実験を重ね、帰帆島や中間水路の利活用を中心に据えたものになりました。水上レジャーやアクティビティなど、地元だけでなく訪れる多くの人が水辺を楽しめる空間、水辺の暮らしを提案したものです。

見ているだけでワクワクする夢ある計画も、実現するには多くの壁がありそうです。

「計画づくりの中で、この空間が国・県・市と管理するところが複雑に入り組んでいることがわかりました。計画の実現には細かな調整が必要だし、もちろんお金もかかります。超えなきゃいけないハードルがいくつもあって、多くの時間と根気が必要です」と伊庭さん。

「それに計画づくりの中で、地元は行政への要望だけでいいの? 住民自らがココを変えていく為にできることがあるんじゃないか、と前向きな意見が地元からも出てきたんです。誇らしかったですね」

### 軽トラ1台分

目を背けたかった場所を地域の宝物に変えるために自分たちができること。この難問に対し、地元はシンプルな答えを出しました。

まずはゴミ拾いから始めよう! こうして生まれたのが「びわ湖まもり隊」。誰でも参加OKということで、私たちも行ってみました。



伊庭健治さん

中島美徳さん

西村貴充さん

草津市コミュニティ事業団  
**ひとキラ**  
 まち 助成  
 2024

\*老上西学区まちづくりプラン(草津市版地域再生計画)

「これからも、ずっと住みたい、住んでみたい健康なまち」を基本理念に2022年に老上西学区まちづくりプラン「みんながつながるウォータータウン～帰帆島及び中間水路を地域の資源とした新たな水辺の暮らし～」を策定。 <https://oinishi-kusatsu.jp/>





それにしても遠目では美しい中間水路も、水辺にくるとずいぶん様子が違います。ほんとにゴミの量が入りこい。タバコの吸い殻・缶・ペットボトル・ビニール袋・コンビン・弁当の容器から、なんと三角コーンやドラム缶まで。もう、あらゆるゴミが捨てられています。

代表の西村さんです。

「車で通りすぎると気づかないけど、歩くとゴミの多さに驚きます。車からのポイ捨てだけじゃなく、釣り人のゴミや発泡スチロールの箱なんかも。あと、風や波の加減で琵琶湖のゴミが流れてきてここに溜まってしまっているんですね。毎回、軽トラ1台分ぐらいになります。花火大会の後なんかすごい量でしたよ(笑)」

### はじめの一步

「毎回、30〜40人程度参加してくれます。子ども・高齢者・学生・

企業さん・釣り人の会など様々な人が参加してくれるのが嬉しいですね。ゴミを拾いだすとつい時間を忘れてしまうので、毎回1時間決めていきます。月に1回1時間だけのボランティアです。ムリのない程度で楽しく続けることが地域でのコツだと思います」と西村さん。

「ゴミ拾いと言うと面倒なイメージがあるかもしれませんが、やってみるとこの1時間が本当に清々しくて。爽快ですよ」  
なるほど、ゴミを拾うことで地域への愛着が湧くし、身近な場所になる。まさしく、まちづくりの第一歩ですね。

今、老上西学区まちづくり協議会ではアウトドア企業と連携して、中間水路でのカヌー体験会も始めました。

前回の体験会に参加した西村さん曰く「水の上から見る自分のまちはまた格別。湖上から見る琵琶湖や矢橋の景色は必見です」

びわ湖まもり隊の活動のスタート地点は矢橋公園。  
もののふの 矢橋の船は速くとも  
急がば回れ 瀬田の長橋

そう、ここはあの「急がば回れ」の語源となった場所。中間水路を自分たちの大切な場所にするという大きな夢を、目の前のゴミを拾うことから始めた老上西学区。「矢橋の帰帆」の急がば回れのチャレンジに目が離せません。



▲中間水路のイメージ

矢橋帰帆島・中間水路  
活用プロジェクト





# もうめスツキリ

老上西学区にまつわるスツキリ。□に入る5文字を答えてね。

問

(1) 春といえば?  
新草津川沿いには557本もの花が咲き誇る

さ□ら

(2) 明治29年の洪水の水位が記されている

ふれあいの□う

(3) 中間水路ではこんな体験も

カ□ー

(4) 近江八景のひとつ

やば□のきはん

(5) 2017年開設。みんなの大好きな居場所です

おいかみ□しまちづくりセンター



## 応募方法

ハガキに①答えの5文字②住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしております。

※切 5月17日(金) 必着

## 宛先

〒525-0032 草津市大路二丁目1番35号  
(キラリエ草津)

(公財)草津市コミュニティ事業団  
「コミュニティくさつ5月号」係

☑ com-com@mx.biwa.ne.jp

☎ 565-0411

## プレゼント

応募いただいた中から抽選で  
石窯パン工房ポルポロンで利用  
できる優待券(1,000円相当)  
を5名様にプレゼント



## まちの 小さな美術館



老上西まちセンのロビーでは毎月美術展が開かれます。それは小さくて、かわいくて、あったかい美術展。その名も「まちの小さな美術館」

絵画・写真・手づくり作品など月替わりで地域の人の作品が展示されます。プロ顔負けの作品から、わが家のレシピ集なんて楽しいものまで、見知った人の作品を身近で鑑賞できます。作者の人となりを知っているからこそ、より温かみを感じる“ほっこり空間”

ぶらりと訪れたいくなる、まちの美術館です。



## ポイント 老上西のここが好き!



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

